

リニア沿線紀行

リニア中央新幹線神奈川県駅（仮称）工事ヤードに見学スポット ～「さがみはらリニアひろば」を訪問～

リニア中央新幹線神奈川県駅（仮称）建設現場で、工事見学場所が造られて一般公開されているとの報道があり、早速現地を訪問した。その概要をお伝えする。

1. 工事ヤードにできた巨大な山

リニア神奈川県駅は、神奈川県相模原市緑区橋本に設置されるリニア中間駅唯一の地下駅となる。この地下駅は用地を開削、いわば露天掘りをして、その中に駅の躯体・構造物を造り上げる。現状は、予定の地下約30mまではぼ開削が完了し、その後の駅構造物の構築に取り掛かる段階と言える。駅の開削で出た土量は約80万 m^3 、そのうち工事終了後の埋め戻しに利用する発生土約20万 m^3 を駅予定地内に仮置きしており、現状もまだ続いている。その山を展望台として整備し、一般公開に供したのがこの「さがみはらリニアひろば」となる。

「さがみはらリニアひろば」は本年6月17日にオープン。「開園日」は毎週金曜日と第1、第3、第5の土曜日。開園時間は10時から16時までとなっている。

2. 「リニアひろば」へ登ると

現場を訪れたのは金曜日の10時開園前。JR横浜線・京王線橋本駅前の道路を隔てたバス乗り場横の工事フェンスに入口がつくられている。時間前には私ともう一組のみだったが、開園とともにどこからともなく人が寄ってきて、十数人が山の上を目指して歩き出した。高さは20m～30m、発生土がしっかりと突き固められて現代のピラミッドか古墳という感じがしなくはない。登りきったところはかなり広く、駅構造物が設置される地下の建設現場をはじめ、橋本駅や相模原市街地、遠くは丹沢山系など一望できる広場となっている。

「展望台」では皆思い思いに写真・ビデオ撮影をしたり、工事現場を説明する案内表示板の前で、JR東海職員からそれぞれ説明を受け、また意見を交わしている。

会話を聞いていると、多いのはやはりリニア工事の完成および開通時期の見通しに関することだった。静岡県内の工事着工見通しに関することも同様に出された。

また、工事後の駅周辺整備に関することもあった。



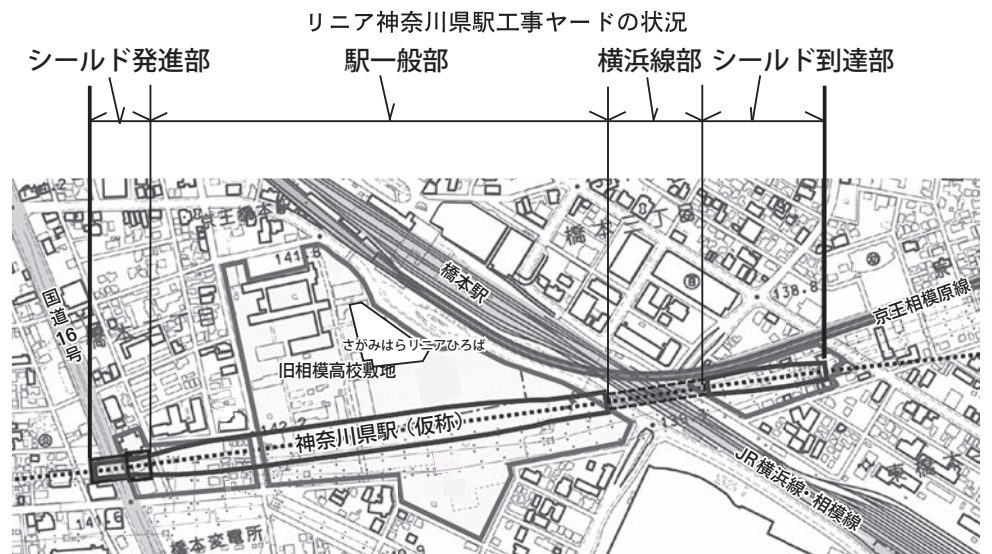
相模原市橋本駅とリニア神奈川県駅工事現場
右手土嚢の箇所が「さがみはらリニアひろば」



「ひろば」入り口



突き固められた斜面を登り広場へ



「中央新幹線神奈川県駅（仮称）新設工事における環境保全について（元年11月）」の説明図に、事業説明会資料に基づき一部補足。「さがみはらリニアひろば」の凡その位置を表示

3. 神奈川県駅の各区分の状況

リニア神奈川県駅は大きく4つに区分されている(前頁下図)。見学の対象となっているのは主に「駅一般部」。旧相原高校跡地の部分は敷地に十分余裕があるため、ひな壇状の法面をつけて開削を行い開放的な空間、どこかの報道にあった「船のドックのようだ」という表現の通りと言える。駅一般部の名古屋方には、地表まで垂直に土留め壁を立ち上げ、それを支える鉄骨構造(支保工)が見られる部分がある。展望台からは、残念ながら地底の様子は窺えないが、駅構造物を積み上げる作業に取り掛かっているものとみられる。

駅一般部の隣り、「シールド発進部」は、「国道16号交差部」とも言われており、横浜市を起点として東京都町田市、神奈川県相模原市、東京都八王子市へ向かう主要道(その後川越市、さいたま市、千葉市、木更津市を通して東京都区部を囲む環状道)で通行量の多い国道16号を非開削で本線トンネルを開ける。国道16号トンネルが完成したところで、そこからシールドマシンが発進して相模川橋梁まで掘り進められる。相模川橋梁の工事についても発注が終わり、逐次準備が進められると見られる。

国道16号に隣接する箇所には既に立坑が完成し、そこから国道下のトンネル掘削が行われている。工法は「角型鋼管推進」という片方からトンネルの形に角パイプを地中に挿入して外形を固定し、その中の土砂を機械掘りしていくもの(総称してURT工法という)。現在のところトンネルの高さの半分程度まで掘り下げられていることが展望台の掲示板に写真で示されている。

駅一般部から品川方は「横浜線部」と「シールド到達部」になる。東京都町田市の小野路非常口から発進して来るシールドマシンがここに到達。横浜線の下は「非開削」で、「シールドマシンで通すのかなど検討中」(JR東海)ということであった。

近辺では、東京電力パワーグリッド(株)による東京電力橋本変電所関連の高圧線地中化工事が行われており、また移転絡みもあるのかマンション建設工事も多数見られ、この地域一帯が慌ただしい状況となっていた。

4. 現場見学を終えて

当初記したように、平日の公開日にかかわらず想定していたより多くの方が詰めかけているという印象だった。高齢の方が目立ったが、若い人も交じっており、近隣の方が多いように見えた。これから夏休みになると子供連れ、家族連れの見学者が多くなるのではないかと。

見学者の様子を見ると、この地域の方々にとっても開通への期待・関心が窺われた。リニア工事に対しては厳しい意見を聞くことがあるが、「百聞は一見に如かず」。現場を見て説明を受けることで、工事への理解が進むものと考えられる。

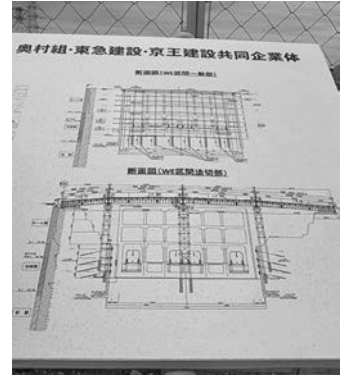
このような形の一般公開は、事業者にとって負担が大きいことではあるが、同様な取り組みを他の現場でも進めて貰えたら、と感じた「さがみはらリニアひろば」訪問であった。



リニア神奈川県駅「駅一般部」全貌



土留め壁利用と法面利用の箇所



現場説明看板



国道16号
この下でトンネル掘削されている



見学者がJR東海担当者から
説明を受ける